

令和4年度第2回駒来塾運営委員会 議事要旨

《日 時》	令和5年2月16日(木) 午後2時～午後2時40分
《場 所》	小牧市役所 東庁舎1階 会議室1-1
《議 事》	(1) アンケート結果について (2) 次年度の各会場生徒数と支援員・サポーター状況 (3) 次年度の方針と新規塾生の募集について (4) その他
《出席者》	委 員：舟橋 孝司、松浦 恵美、山本 幾男、安藤 智人、 山田 好広、光部 明美（6名） 事務局：鍛冶屋こども未来部長、川尻こども未来部次長、 伊藤こども政策課長、采女学校教育課管理指導主事、余語 福祉総務課副主幹、若林青少年育成係長、岩井指導員、舟 橋指導員、武田指導員、荒川
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

1 あいさつ

【部長】

日頃から、本市の青少年健全育成に格別ご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。
また、本日は、ご多忙にもかかわらず、第2回小牧市学習支援事業、駒来塾運営委員会にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

駒来塾につきましては、平成29年度から、こども夢・チャレンジ推進事業の取り組みの一つとして、家庭環境などを理由に、学習塾に通っていない中学生を対象に実施をして参りました。

今年度も昨年度に引き続き、4月と年度途中での追加募集の2回にわたり塾生の募集を行ったところ、令和5年1月時点の参加生徒数は71人で、昨年度よりも10人多くの方にご参加をいただいております。

本日は駒来塾に参加している生徒と保護者の生の声であるアンケート結果について、また次年度の運営計画並びに新規募集計画も議題に上げさせていただきました。この運営委員会では、円滑に駒来塾の運営を行っていくため、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、子どもたちが、駒来塾に来てよかったと思えるような事業を実施していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

2 議事

(1) アンケート結果について

資料1に基づき事務局より説明

【質疑応答・意見等】

【山田委員】

アンケートの結果ですが、過年度と比較すると令和2年度の評価が一番高く、令和3年度よりも今年度の方が非常に生徒も保護者も前向きな回答ができていたように思います。

問題点についても、すぐに対処していただいているので、子どもたちは安心して勉強ができていると思っております。

学びたい教科もその年によって異なってくるかと思いますが、子どもたちの学びたい教科と、学ぶ方法についてどのように対応されているのか教えていただけますか。

【山本委員】

現場の声になりますが、基本的には宿題を持ってきてもらって、宿題を教えながら、この勉強については家でもできるから、できたら英語や数学を持っておいでというように、教科の限定はあまりできませんが、徐々に促すという形で英語・数学を学習の中心に持っていく方向で進んでいます。

(2) 次年度の各会場生徒数と支援員・サポーター状況

(3) 次年度の方針と新規塾生の募集について

資料2～4に基づき事務局より説明

【質疑応答・意見等】

【松浦委員】

資料2で学年別生徒人数というのを出示していただきました。非常に多くの生徒が駒来塾の方に通わせていただいて、本来ならば学校でいろいろと学習面でもサポートできると良いのですが、なかなか時間的な制限等もあって難しい部分をこういったところで、フォローしていただいているということ非常にありがたく思っています。

子どもたちの出席状況がどんな状況なのかということと、生徒3～4名に対してサポーター1人が担当されているということですが、固定で3～4名を決めて対応しているのか、生徒の担当をはっきりするわけではなく、みんなで見ているのか、どんな状況なのかということをお教えいただけるとありがたいと思います。

【事務局】

出席状況は会場ごとに異なりますが、ほぼ毎回来てくれる子もいれば、連絡してもなかなか来られないという子もいます。長期で休んでいる子は学校にも来られていない子が多いです。学校には行けていないけど、駒来塾の方には時々顔出すという子もいますが、概ね8～9割ぐらいは出席できている状況だと思います。

生徒の担当については、各会場によっても違いますが、基本的にはみんなで見るという形をとっております。人数が多い会場については、事前の打ち合わせで、今日はこの先生が3年生中心とか2年生中心に担当するというような、大まかな分け方をされることもありますし、先生方も毎回みえるわけではなく、入れ替わりですので、その時のスタッフをみて、塾長先生の方の指導で担当を決めるということもあります。

【山本委員】

味噌地区は席が決まっているので、事前の打ち合わせのところで、この辺はこの先生が担当するというように決めています。また、記録がありますので、それを見ながら対応していくという形になります。

不登校の生徒もいますので、そういう子については、できる限り固定の先生がついて、様子を見ながらフォローする体制を取っています。

【光部委員】

学習支援員サポーターの配置についてですが、北里地区は学習サポーターが0人となっています。

これは、応募者が全くいないということであるのか、サポーターはなしで支援員のみで運営していくという形でいいということか、教えていただきたいと思います。

【事務局】

北里地区はもともとサポーターが1名お見えになりましたが、コロナ禍になって、自粛させてほしいということで、完全には辞められていないのですが、ここ2年間来られない状態ですので、数字の上では0にしました。

0でいいというわけではなくて、サポーターで北里地区を希望される方が今までいなかったということになります。

今年はできるだけいろんな組織を使いながら学生サポーターの確保をしたいと思っていますので、北里地区を希望される方がいれば、すぐに行っていただくように対応させていただきます。

(4) その他

- ・駒来塾見学会の募集結果について

【事務局】

駒来塾を必要とする生徒たちが中学校に進学後、すぐに入塾ができるように、東部地区の6年生を対象に駒来塾の見学会の参加者を募りましたが、今回は応募が0件でした。

市としては、来年度も小学6年生を対象とし、中学校入学後、すぐに入塾ができるような環境を整えていきたいと思っておりますので、引き続きそういった対策について検討していきたいと思っております。

【安藤委員】

どういう募集の仕方をされたんですか。

【事務局】

東部地区である篠岡、桃ヶ丘、陶、光ヶ丘、大城小学校の小学6年生を対象にチラシを配布させていただきました。

本来でしたら2月9日に体験会を行う予定でしたが、今回応募が0件という状況です。

【舟橋委員長】

東部地区が今回選ばれた理由と、応募が0件であった理由はいろいろ考えられると思うんですけども、例えば、こんな工夫をすると増えるのか、あるいはもともと難しいものがあるのか、その辺をどのようにお考えなのかをお聞かせいただければと思います。

【事務局】

東部にした理由は、本年度モデルで行うというところで、初めての試みでしたので、人数的な余裕などを考えて東部地区を選ばせていただきました。

応募が0件であった理由については、事務局としても検討中であり、来年度にどういった形で行うのがいいのか、例えば、1回に全4地区でやるのかなど、他に良い方法があるのかというところを考えながら、学習支援が必要な方が中学校に入学してすぐに駒来塾に申し込んでいただけるような仕組みを作っていきたいと考えております。

【舟橋委員長】

委員の皆さんで何か、アイデアや募集が集まらなかったのはこれが原因という、思いつきで構いませんが何かありますか。

【松浦委員】

今後、他の地区でも見学会の案内は配布するということになれば、もう少し件数が出てくるかもしれないですね。

・その他

【安藤委員】

アンケートの結果をみると、非常に活動としては良い活動だと思っています。

今後も活動を継続していただきたいと思うとともに、南部地区も西部地区は会場まで距離があり、空白の地区になっているということを以前から気になっています。施設の現場においても、「南部や西部コミュニティセンターで開講してほしい」という話を聞いたり、「こういった活動を応援したい」という声もありますので、予算や支援員の確保などの部分で難しいこともあると思いますが、ぜひこういった場所でも開講してほしいなと思っています。

駒来塾の活動が広がっていき、市民に周知されていくことによって、小学校6年生の子たちも見学会に行ってみようかなとか、募集をかけたときにもっと多くの方が手を挙げられるのではないかなと思っています。私の印象として、駒来塾の存在を知っている人が増えている一方、知らない人はまだまだ知らないというところがあると思いますので、周知が広がっていくと、より良い活動になるのではないかとこのように感じています。

【山本委員】

駒来塾は夜の開講になるので、帰りが心配です。開始の段階ではまだ明るいですが、終わったら夜で外は暗いので、会場が家の近くにある方が子どもたちも通いやすいということはおつくづく感じています。

【山田委員】

来年度の生徒数で2年生が3名程度減っています。2年生から3年生に学年が上がったときに、駒来塾を辞めたい理由については何か掴んでいますか。

【事務局】

1人の方は、不登校傾向で駒来塾があるということもやはりプレッシャーになるのかなということが退塾理由になります。もう1人の方は、保護者が仕事で送り迎えができないので、長期にわたって来ることができなかったということで、保護者から今後通えないという連絡が入りました。

【舟橋委員長】

学校でタブレットが導入をされて、基本的にタブレットの使用は家庭と学校だけで他のところへ持っていかないという前提にはなるとは思います、今後の見通しみたいなのはあるのでしょうか。

【采女管理指導主事】

この質問の内容にお答えするのは、ICT 推進室だと思いますが、学校では、子どもたちに1人1台のタブレットが配付されています。また、3学期からは、保護者から学校への欠席連絡や、学校から保護者への通信等の配付を、アプリを活用して行えるようになりました。

子どもたちは1人1台タブレットを活用して、日々の学校生活の中で、学びを深めています、今はまだその初期段階であると捉えています。今後、様々な活用を通して、検証を進める中で、子どもたちの実態に応じて、タブレットの活用については検討が必要であると考えています。ICT 推進室には、この会で話題が出たことを伝えておきます。

【舟橋委員長】

教育においても、DX が話題になっていて、学校現場や子どもたちを取り巻く環境を変えていかないといけない、せつかく GIGA スクール構想が始まって学校だけの話ではないということだと思います。ICT 推進室からも保護者向けに細かい説明がされたものが配られているので、いいなと思いつつ、先ほどお話があったように、ゆくゆくは子どもたちがより良く、習慣づけも含めて意欲的になれるように、そういうものが使えるといいかなということをおもいましたので、お聞きしました。ありがとうございました。

【山本委員】

生徒の何人かは自分のスマホで持ってきて、ネットを繋いで調べていますね。

そういうことも現実には起こっていて、結構子どもたちは端末を活用して学習しているような状況です。

【安藤委員】

その他の質問になりますが、学校に行けてないけれども駒来塾には来ているという子どもたちは大体どれくらいの割合いるのでしょうか。

【事務局】

各会場に1人、2人はいます。

【安藤委員】

南部コミュニティセンターや西部コミュニティセンターは児童館も併設になっていますので、児童館と連携すれば、そういった子どもたちの学習面だけでなく、アフターフォローや他の部分のフォローといったところで、子どもたちに救いの手を差し伸べることができるのかなと思いましたが、お聞きしました。ありがとうございました。

3 その他

次年度の運営委員会は年2回程度の開催を予定。

次回委員会は、今年度と同様に7月頃の開催を予定。日程、議事内容等詳細については、決まり次第連絡。